

熊本商工会議所・第25回経営動向調査

平成14年9月期結果報告書

業況DI 対前期比前回と変わらずマイナス46.4

～業種別DIの比較ポイントに格差～

調査結果のポイント

全業種の業況DIは対前期比で平成14年6月期の前回調査と変わらず、マイナス46.4となった。

対前期比において業況が悪化した業種は、製造業が前回調査(6月)から12.0ポイント下落し▲60.0。建設業(土木)が10.0ポイント下落し▲60.0。小売業が32.1ポイント下落し▲75.6。

対前期比において業況が改善した業種は、建設業(その他)が23.5ポイント上昇し▲18.2。卸売業が9.8ポイント上昇し▲44.0。飲食店が33.3ポイント上昇し▲16.7。サービス業が17.9ポイント上昇し▲26.3。

前回の6月期調査では、小売業の業況DIが大幅に改善され、全体の業況改善に貢献したが、今回9月期調査では、小売業の業況DIが対前期比で32.1ポイント下落し▲75.6と過去最低を示すなど、熊本市内小規模企業の景況感は依然として厳しい状況が続いている。

なお対前年同期比との比較では、平成14年6月期の前年同期比の結果に対し2.0ポイント改善し、マイナス42.1だった。

調査対象期間 平成14年7月～9月(平成14年度第2四半期)

調査期間 平成14年9月16日(月)～20日(金)

調査対象数 熊本市内小規模企業 292事業所

回答数 185事業所(回答率63.4%)

(小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業)

《産業別回収状況》

調査産業	調査対象数	回答数	回答率(%)
製造業	37	25	67.6
建設業(土木)	22	16	72.7
建設業(その他)	34	23	67.6
卸売業	36	26	72.2
小売業	69	45	65.2
飲食店	23	12	52.2
サービス業	71	38	53.5
合計	292	185	63.4

※ DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすもの。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした産業別概況

(各モニター様からのコメントは別紙)

全業種

売上高がほぼ横ばい、受注・販売単価が横ばいの中、仕入単価がやや悪化。それにより営業利益もやや悪化したものの、全体の業況は横ばいとなった。

※全業種における仕入単価D Iの変化 14年6月期8.4⇒14年9月期4.4

製造業

受注単価、仕入単価の大幅な悪化により、営業利益が大幅に悪化。売上高もやや悪化したため、全体の業況も大幅に悪化した。

※製造業における営業利益D Iの変化 14年6月期▲54.2⇒14年9月期▲68.0

建設業(土木)

受注単価はやや改善したが、売上高、仕入単価の大幅な悪化に伴い、営業利益が大幅に悪化。結果として業況も悪化した。

※建設業における営業利益D Iの変化 14年6月期▲43.8⇒14年9月期▲62.5

建設業(職別・設備)

売上高、受注単価、仕入単価の大幅な改善により、営業利益はほぼ横ばいであったものの、全体の業況は大幅に改善した。

※建設業(職別・設備)における売上高D Iの変化 14年6月期▲33.3⇒14年9月期▲9.1

卸売業

販売単価がほぼ横ばい、仕入単価がやや悪化したものの、売上高の大幅な改善により営業利益もやや改善。全体の業況もやや改善した。

※卸売業における売上高D Iの変化 14年6月期▲38.5⇒14年9月期▲28.0

小売業

売上高、仕入単価が大幅に悪化し、販売単価もやや悪化したため営業利益が大幅に悪化。全体の業況も大幅に悪化した。

※小売業における営業利益D Iの変化 14年6月期▲40.0⇒14年9月期▲77.8

飲食店

販売単価、仕入単価が大幅に改善したため、売上高、営業利益も大幅に改善。全体の業況も大幅に改善した。

※飲食店における売上高D Iの変化 14年6月期▲35.7⇒14年9月期8.3

サービス業

販売単価がやや改善し、仕入単価がほぼ横ばいの中、売上高、営業利益が大幅に改善。全体の業況も大幅に改善した。

※サービス業における営業利益D Iの変化 14年6月期▲41.9⇒14年9月期▲22.2

産業別一覧

上段=対前期比

下段=対前年同期比

業種	今回分 (H14.9月期)	前回分 (H14.6月期)	比較ポイント
製造業	▲60.0	▲48.0	▲12.0
	▲52.0	▲40.0	▲12.0
建設業 (土木)	▲60.0	▲50.0	▲10.0
	▲50.0	▲43.8	▲6.2
建設業 (職別・設備)	▲18.2	▲41.7	+23.5
	▲19.0	▲29.2	+10.2
卸売業	▲44.0	▲53.8	+9.8
	▲34.6	▲46.2	+11.6
小売業	▲75.6	▲43.5	▲32.1
	▲71.1	▲58.7	▲12.4
飲食店	▲16.7	▲50.0	+33.3
	0.0	▲53.3	+53.3
サービス業	▲26.3	▲44.2	+17.9
	▲28.9	▲34.9	+6.0
全体	▲46.4	▲46.4	+0.0
	▲42.1	▲44.1	+2.0

来期の見通しD I

全産業における来期（平成14年10月～12月）の業況見通しD Iは、マイナス19.6と6月期の前回調査から12.2ポイント改善した。

各産業別の来期の業況見通しは、下の一覧のとおり。

産業別では、前回調査と比べ、来期の見通しD Iが改善された業種は、製造業（31.4ポイント改善し▲9.5）、建設業の職別・設備（0.5ポイント改善し▲9.5）、卸売業（3.1ポイント改善し▲26.1）、小売業（7.6ポイント改善し▲25.0）、飲食店（8.5ポイント改善し▲30.0）、サービス業（27.1ポイント改善し▲2.9）の4業種。

一方、前回調査と比べD I値が悪化した業種は、建設業の土木（11.5ポイント悪化し▲61.5）のみとなった。

	今回	前回	比較
製造業	▲ 9.5	▲40.9	+31.4
建設業（土木）	▲61.5	▲50.0	▲11.5
建設業（職別・設備）	▲ 9.5	▲10.0	+ 0.5
卸売業	▲26.1	▲29.2	+ 3.1
小売業	▲25.0	▲32.6	+ 7.6
飲食店	▲30.0	▲38.5	+ 8.5
サービス業	▲ 2.9	▲30.0	+27.1
全体	▲19.6	▲31.8	+12.2